實相院だより

令和六年九月
百三十八号

勤行（おつとめ）

朝夕、仏さまの前で、お経を読むことを、勤行と言います。

〇　〇

親兄弟やご先祖への感謝。
今生かされていることへの感謝。
この感謝の心が、朝、夕の「おつとめ」となってあらわれます。

〇　〇

知識だけでは、人間は完成されません。
静かに花を愛する心。
動物をいたわる心。
真実を尊ぶ心。
親切な行いをする心。
そうした人の心を清め、高めてくれのが、「おつとめ」（勤行）です。

〇　〇

宗教の行を通して人間を円満に完成してくれるのが「おつとめ」（勤行）です。
毎朝、お茶とご飯一杯でもお供えして、皆で手を合わせて「おつとめ」をしましょう。

檀信徒参加の朝のおつとめ

毎月第二日曜日午前六時三十分より、檀信徒参加の朝勤行を行っております。本堂で智山勤行式を読み、位牌堂で先祖供養をします。
終わって皆でお茶をいただきます。
ご参加ください。

實相院の仏（十一）

衿羯羅童子・制吒迦童子

實相院には立像の不動明王と、坐像の不動明王がまつられています。
衿羯羅童子、制吒迦童子は座像の不動明王の両脇侍で、不動明王の命令で衆生を守ると言われております。
お姿は十五歳くらいの童子で、衿羯羅童子は手を合掌し、制吒迦童子は左手に金剛杵を持ち、右手に金剛棒を持っています。玉眼・寄木造り、像高約４０センチの古い仏像です。

袈裟

「おつとめ」する時、お寺をお参りする時、法要に参列する時に、袈裟を身に着けましょう。（葬儀・火葬の時も）
袈裟を身に着けることで、身と心が清められます。

お供え

お供物はお飾りではありません。賞味期限を確認しお供えしましょう。
供物は、早めに仏壇、位牌壇、お墓から下げ、家族みんなで、いただきましょう。
茶湯器は、蓋を取ってお供えします。「おつとめ」が終わったら、お水、お茶をあけ、蓋をします。